

語り手 大原寿美子とある」と言った。

人(明治40年生まれ)

昭和62年8月22日収録

## あらすじ

昔、分別佐平という分別ばかりしていて仕事もしない男がいた。お母さんは「正月が来るのに、餅なり酒なり買えりやあせん」というと、佐平は「山へ行って仕事してみよう」と出ていった。

お母さんが「わしの方が儲けよう」と、隣の長者の隠居を呼んで屏風を立て「隠居さん、転びんさいな」と隠居を抱き転ばして寝ていたら、左平が帰ってきて様子を見て腹を立て、割木を隠居めがけ投げたら死んでしまった。左平が「死んだ者はしかたがない。分別が

## 分別佐平

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

## 人間の反面の心理描く？

傍らの空き家で若衆が毎晩丁半(はくち)をしていて。その隠居さんはそこへ行って「警察に言うに似た声を出し「毎夜さ

たる。こげなことは悪い毎夜さ、警察へ言うで。」ことじゃ。「たばこ銭あ 気の短い男が何か持つげるとこ所の戸口へ行って、頼みにや

「ええ分別を出してみせて、死んだ隠居を湯にいい」と言う。佐平は「よ入らせて、上げて寝させしよし」「負わしてごして「まだ温いじゃええ、ええ」と、それを背負ったお医者に言うじゃ」と布

「ばあさ、開けてごせえて診た。「温いけど息が切れる。どつしよつもの」と言った。

佐平はおばあさんの方へ行って。今夜こそたくさんお金をもらうし、いい正月をしたと

「もどいてござにや、池へ飛び込んで死んでしまつぞ」「死ぬなどこけるなど、どぎえなとせえ」。その隠居を前の池の中へつっこませた。

ジャボンという音に、分別佐平なる男は人殺しを犯しながら、知恵の使い方によっては罰せられずに済むばかりか、かえって大金をもうけてしがみんなを起こして、隠居さんを上へ上げて、ま

## 解説

「そりゃあ悪いことじゃったなあ」と佐平はもつたいをつけて介抱したふりをし、「湯うわかし」と風呂を沸かさ

「元鳥取短期大学教授」(水曜日に掲載)

「ええ分別を出してみせて、死んだ隠居を湯にいい」と言う。佐平は「よ入らせて、上げて寝させしよし」「負わしてごして「まだ温いじゃええ、ええ」と、それを背負ったお医者に言うじゃ」と布

「ばあさ、開けてごせえて診た。「温いけど息が切れる。どつしよつもの」と言った。

佐平はおばあさんの方へ行って。今夜こそたくさんお金をもらうし、いい正月をしたと